

オール・ジャンルであふれるダンディズム

カミーユ・サン・サーンス

Camille Saint-Saëns (1835-1921)

サン・サーンスは優秀だ。演奏家、作曲家としてはもちろん、文筆家としての著述も多く、加えて自然科学や哲学にも通じていた。その手広さは音楽でも同じで、あらゆるジャンルの作品を残している。しかも長生きなので作品数も多い。にもかかわらず話題になることが少ないのは、育ちの良さが漂う鷹揚で伝統的なスタイルゆえだろうか。進取の気風も良いけれど、やっぱり伝統も良いものじゃない？ 上品で端正なダンディズムを今日は堪能したい。

C

2025

FEBRUARY

【第2033回】

🎻🎹

サン・サーンスとサラサーテ

ピアニストとしても活躍していたサン・サーンスは、楽器の演奏にも一家言あったと思われる。そんな彼も一目置いたのが、甘美な音色と完璧な技術で人気を博したヴァイオリニストのサラサーテ。本日演奏される《ヴァイオリン協奏曲第3番》や、《ヴァイオリン協奏曲第1番》《序奏と Rond・カプリチオーン》がサラサーテに献上されている。



腕を組んでも隠せない、品の良さ
イラストレーション: ©IKE